

## 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成しましょう

学習指導要領の外国語科の目標に、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」が掲げられています。その目標を達成するためには、教師自ら積極的に英語を使う姿勢が大切です。

### 1 教師が積極的に英語を使い、英語を使う楽しさを伝えましょう

次の表は、県内の英語教員の授業における英語の使用状況（平成 17 年度）について表したものです。これを見ると、授業の「大半」あるいは「半分以上」を英語で行っている英語教員の割合は、第 1 学年、第 2 学年では 5 割を超え、第 3 学年でも 5 割に近くなっており、この割合は年々増加しています。このことから、先生方の意識の変容と授業スタイルの変化を推察することができます。

平成 17 年度 県内公立中 学校 169 校	大半は英語を用いて 行っている	半分以上は英語を用い て行っている	英語を用いることは あるが半分または それ以下である	英語の使用は ほとんど あるいは 全くない
第 1 学年	13 校(7.7%)	83 校(49.1%)	73 校(43.2%)	0 校(0%)
第 2 学年	7 校(4.1%)	86 校(50.9%)	76 校(45.0%)	0 校(0%)
第 3 学年	12 校(7.1%)	69 校(40.8%)	88 校(52.1%)	0 校(0%)

ここで、教師が授業を英語で進めることの利点について、Q & A としてまとめてみました。「英語で授業を進めるのはどうも・・・」と考えている先生方は、これらを参考に、明日からの授業を行っていただきたいと思います。

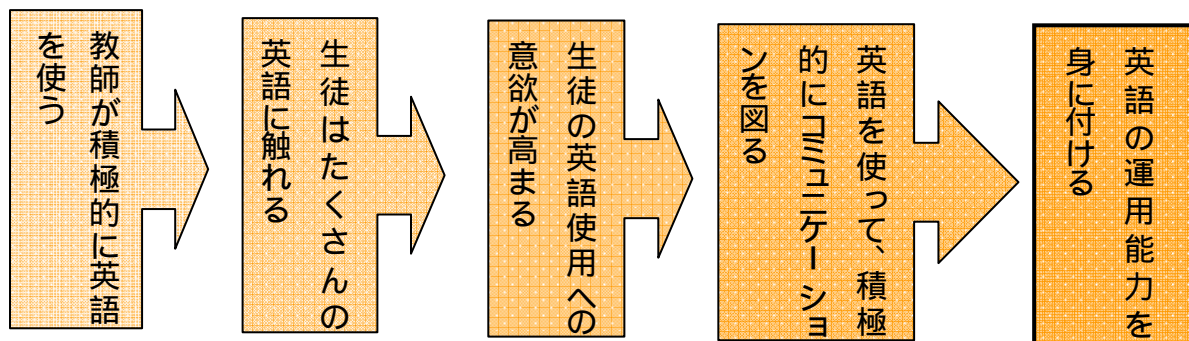
Q 1 なぜ、英語で授業を進めるのですか？

A 1 生徒の英語使用への意欲を高めたり、英語の運用能力を高めるのに役立てたりするためです。

今、中学校の英語教育では、「使える英語」を生徒に身に付けさせることが求められています。そのためには、まず教師が積極的に英語を使うことによって、生徒のよいモデルとなることが大切です。教師が英語を使わなければ、生徒は英語使用の意義やよさを感じることはできず、「使える英語」を身に付けさせることは難しいと考えます。教師が英語を使うことによさとして、次のようなことが考えられます。

生徒がたくさん英語に触れることができる。  
 授業にテンポが生まれ、英語授業のよい雰囲気を作ることができる。  
 教師がモデルとなることで、生徒の英語使用への意欲の高まりが期待できる。  
 教師が生徒と英語でコミュニケーションを図ることで、生徒は英語を使うことの楽しさを実感することができる。  
 教師が生徒と英語でコミュニケーションを図ることで、単なる知識・理解ではない英語の運用能力を身に付けさせることに役立つ。

以上のことを図に表すと、次のようになります。



Q 2 授業のどのような場面で、英語を使えばよいのですか？

A 2 授業のある特定の場面ということではなく、英語を使って授業を進めながら補助的に日本語を使う、と考えましょう。

英語の授業では、「あいさつ」「ウォームアップ」「本文の導入」「本文の音読」「言語材料の導入」「言語活動」など、様々な活動場面があります。ある場面では英語を使い、また別のある場面では日本語を使うということではなく、英語で授業を進めつつ、必要に応じて日本語で補足すると考えましょう。



英語で授業を行い、補助的に、そして効果的に日本語を使いましょう！

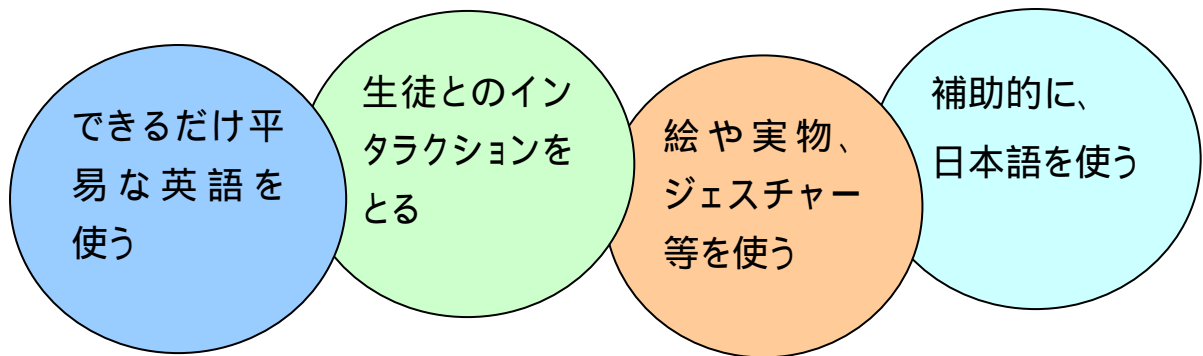
「日本語で補足する」とは、英語で言った後、それをすべて日本語に訳して言うということではありません。そうしてしまうと、生徒の耳には英語が入らなくなります。生徒の理解の状況に応じて、特に必要なことについてのみ日本語で補足しましょう。



先生は、同じことを日本語で  
言ってくれるから、英語なんて  
聞かなくて大丈夫さ！

また、英語で授業を進めていくとよいテンポが生まれ、英語授業のよい雰囲気ができるので、日本語で補足する場合も、それらを崩さないようにしたいものです。

なお、英語で授業を進めていく際には、生徒の不安を軽減するとともに、理解を促すことができるよう、下記のような配慮をしていくとよいでしょう。



それでは、「言語活動」の場면을例に、活動の仕方を英語でどのように説明すればよいか、具体的にみていきましょう。

次の例は、「一般動詞の疑問文」の「理解や練習のための活動」として行う、ヒューマンビンゴです。この活動の仕方を説明する際、心がけたいポイントが二つあります。一つは、生徒に配布するワークシートの一部を拡大した提示用カードを使うことです。もう一つは、活動の仕方を「説明する」というよりも、提示用カードを使いながら「示す」ようにすることです。そうすることで、言葉による説明では理解することが難しい生徒にも理解を促すことができます。

ポイント1

**提示用カードを効果的に使う**

ポイント2

**「説明する」のではなく「示す」**



大きなカードを使いながら、実際に  
やり方を示してくれるから、分かりや  
すいなあ。

活動名「あなたはスポーツが好き？」

T: Now, let's play Human Bingo "Do you like sports?"

S: Yes.

T: Please help me, Naomi.

活動のモデルを示すため、生徒の協力を得る

N: Sure.

T: Thank you, Naomi.

Everyone, please look at these two cards.

This is Naomi's card. That's mine.

提示用カードを黒板に貼る

< Naomi's card >

提示用カード

like	play	have
sports		
music		
movies		

生徒に配るカードの拡大版を、画用紙などで作っておく

T: First, I'll ask you, Naomi.

N: OK.

T: Do you like sports?

N: Yes, I do.

T: Naomi's answer is "Yes, I do."

When your friend answers "Yes, I do.", please circle like this.

このように言いながら、教師の提示用カードの sports を で囲む

< Teacher's card >

like	play	have
sports		
music		
movies		

Now, Naomi's turn. Please ask me.

N: OK. Do you have a dog?

T: No, I don't.

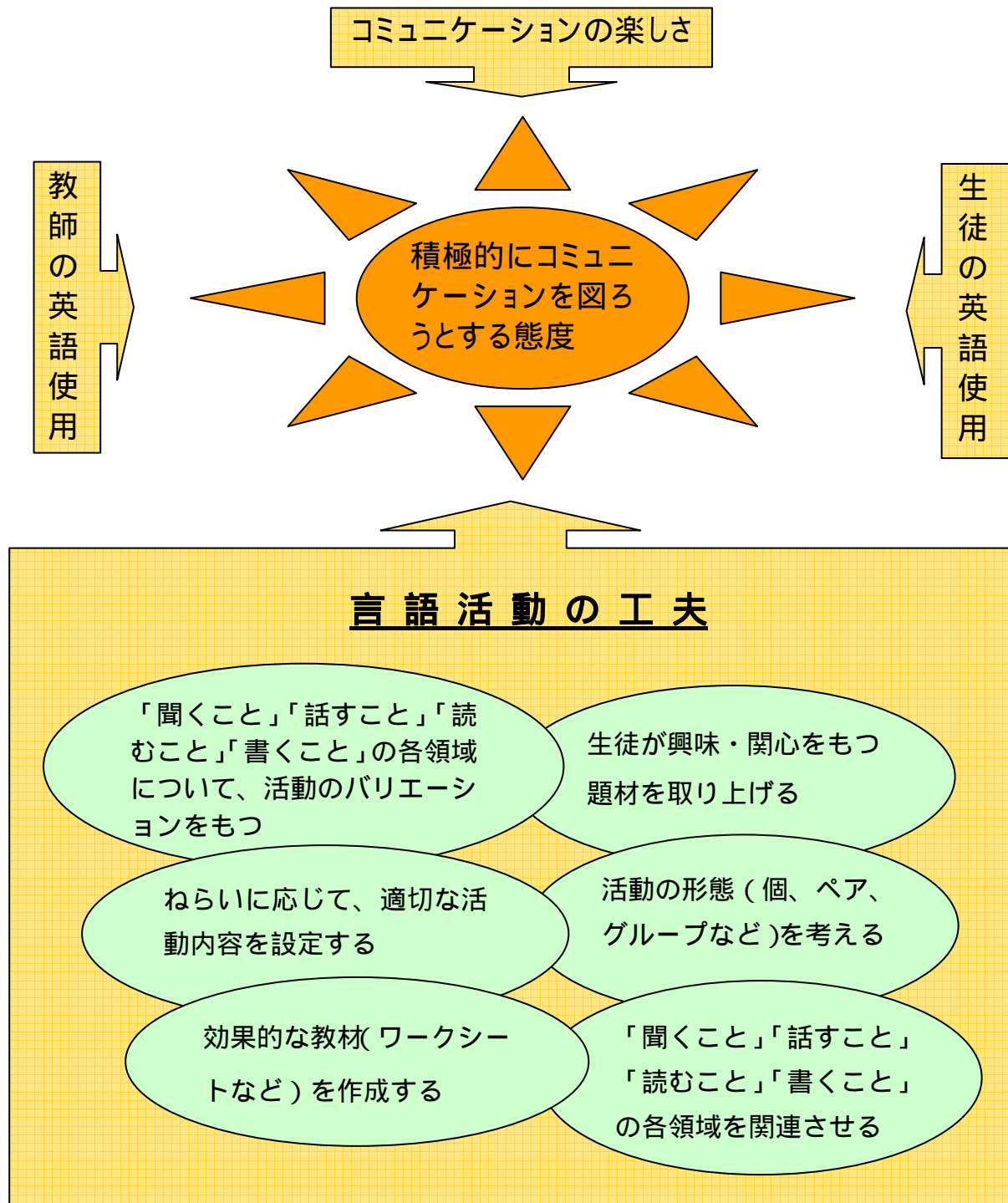
I answered "No, I don't." Naomi can't circle the dog. Sorry, Naomi.

このように言いながら、手で×を示すなどして、犬の絵を で囲めないということを示す

この後、もう一度モデルを示し、生徒の理解を促す

## 2 言語活動を工夫し、コミュニケーションの楽しさを味わわせましょう

先に述べたように、教師が積極的に英語を使うことによって、生徒の英語使用についての意欲が高まることが期待できます。さらに、授業で行う言語活動を工夫することによって、生徒が意欲的に取り組めるようにしましょう。そして、言語活動を通して英語を使わせ、生徒にコミュニケーションの楽しさを実感させることが、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながります。



ここで、前ページの「言語活動の工夫」で示したポイントのうち、次の3点について具体的な活動例や留意事項を挙げてみたいと思います。

「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」  
の各領域について、活動のバリエーションをもつ

## 1 「聞くこと」の活動

### (1) 基礎的な活動

- ・アルファベット、単語、数字などの聞き取り
- ・ビンゴ、TPR、絵などを用いた活動



### (2) 内容のある活動

- ・単文、まとまりのある文、スモールトーク、歌 など
- ・T-Fクイズ、書き取り、図表の完成、メモを取る など

## 2 「話すこと」の活動

### (1) 基礎的な活動

- ・あいさつ、簡単なQ&A、ストラテジー など

### (2) ゲーム性のある活動

- ・インフォメーションギャップ、ヒューマンビンゴ など

### (3) 生徒のアイデアを生かす活動

- ・プラスワンダイアログ、オリジナルダイアログ、スキット など
- ・スピーチ、Show & Tell、ストーリーテリング など

## 3 「読むこと」の活動

### (1) 音読、黙読、Read & Look up

### (2) 速読、多読

### (3) ポイント読み

- ・事前に与えられたに質問に答える、  
トピックセンテンスを探す、タイトルを付ける、質問を書く など



## 4 「書くこと」の活動

### (1) 単語を書く活動

- ・しりとり、アルファベット順、ビンゴ、ウェッピング など

### (2) 単文を書く活動

- ・文を聞きながら、暗記して、黒板を消しながら など

### (3) 課題作文

- ・自己紹介、日記、手紙、英字新聞、ストーリーメイキング（物語の最後の部分を書かせるなど）、セリフ（4コマ漫画など）を書く など

## 生徒が興味・関心をもつ題材を取り上げる

### 1 視聴覚教材に関するもの

- (1) 絵、写真、ポスター、地図 など
- (2) 歌、チャンツ など
- (3) DVD、VTR、プレゼンテーションソフト、OHP、OHC など
- (4) 小物

### 2 題材内容に関するもの

- (1) 教科書の題材を取り上げたもの
- (2) 身近な事柄を取り上げたもの
  - ・趣味、予定、好きなもの など
- (3) 季節の行事などを取り上げたもの
  - ・修学旅行、クリスマス、バレンタインデー、祝日 など
- (4) 今日的なトピックを取り上げたもの
  - ・環境問題、国際交流 など



### 3 各種資料（英語で書かれたもの）の利用

- (1) 新聞、雑誌 など
- (2) カタログ、案内書、説明書、注意書き、申込書、レシピ など

## 活動の形態（個、ペア、グループなど）を考える

一単位時間の授業では、生徒に様々な活動をさせます。そのとき大切なことは、各活動のねらいを達成できる適切な活動形態で生徒に活動させることです。活動形態が適切でないと、その活動を通して生徒に身に付けさせようとした力などが身に付かず、時間の無駄遣いとなってしまうことになります。

ここで、ペアでの活動について考えてみます。ペアでの活動としては、隣同士など固定のペアで活動させる場合と自由に相手を選んで活動させる場合があります。

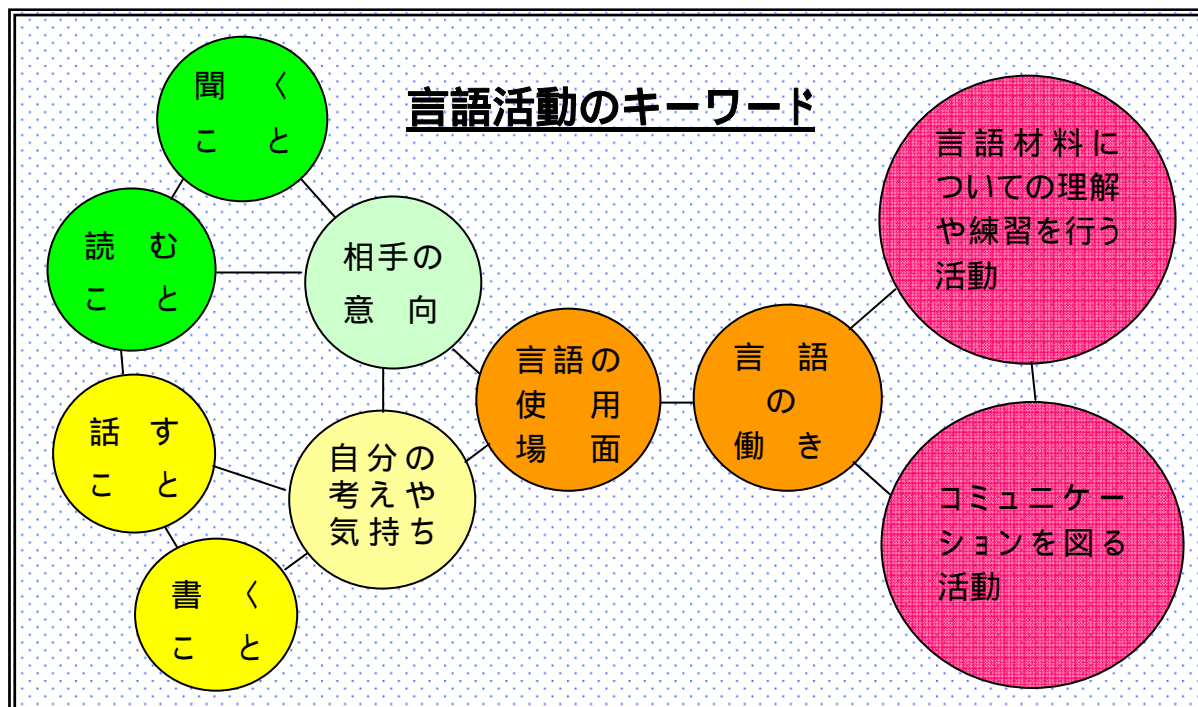
固定のペアで活動させる利点は、教室内を歩かせる必要がないので時間がかからないこと、また、生徒の人間関係を反映させることなく活動させられることです。

一方、自由に相手を選んで活動させる利点は、何と言っても、多くの友人と意見交換ができることです。

このように、それぞれの形態の利点を生かし、適切な形態を選択して活動させることが大切です。



また、言語活動を設定する際、念頭に置いておかなければならないキーワードとして、次のものが挙げられます。



## 「聞くこと」の力を高める指導の工夫をしましょう

これまでの調査では、「聞くこと」については、概ね良好な結果となっています。しかし、調査問題を個別にみていくと、課題もあります。今後、さらに高めていきたい力として、「要点を聞き取る力」や「適切に応答する力」が挙げられます。

学習指導要領「2 内容(1)言語活動」には、「英語を理解し、英語で表現する能力を養うため、次の言語活動を3学年間を通して行わせる」とあり、領域ごとにいくつかの指導事項が示されています。そのうち、「聞くこと」の指導事項に、次のようなものがあります。

(イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、具体的な内容や大切な部分を聞き取ること。

(ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。

それでは、どのような指導をすれば、「要点を聞き取る力」や「適切に応答する力」を高めることができるのでしょうか。